

＜ポイント版＞ ぎふ経済レポート（令和 7 年 12 月分）

【製造業】

- 10 月の鉱工業生産指数は前月比 6.2 % 上昇となった。ヒアリングでは、航空機部品の売上が回復してきたており、主要取引先からの急ぎの受注が増えているとの声や、円安が業績の追い風となっており、対前年比は非常に好調との声が聞かれる一方で、EU のエンジン車禁止方針の撤回により、足元では減産となっているとの声が聞かれる。
- 地場産業は、11 月の鉱工業生産指数は木材・木製品、食料品、家具で上昇した。ヒアリングでは、新商品の売上が好調、それに付随して関連商品も売れたため、売上は增收増益との声が聞かれる一方で、円安の影響は大きく、仕入れコストが増加しているとの声や、今期に入り多少上向きになっているが、これまでのマイナスを払拭できるほどではないとの声が聞かれた。

【設備投資】

- 設備投資は、11 月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比 14.2 % 増加となった。ヒアリングでは、航空機関連で設備投資が活発化しているとの声や、従業員満足度の兼ね合いから、工場内を明るくするため、内装を塗り替えるとの声が聞かれた。

【個人消費】

- 個人消費は、11 月の販売額は、全体で前年同月比 4.8 % 増加となった。ヒアリングでは、シネコンの好調も続いており、単月の客数は過去最高で売上も歴代 5 位となっているとの声や、中間価格帯の商品は売れ行きが良くないが、低価格帯や高価格帯には需要があり、二極化しているとの声が聞かれた。

3 【観光】

- 宿泊者数は、前年同月と比較しマイナスになったものの、コロナ前の約 9 割まで戻っている。宿泊施設からのヒアリングでは、人手不足に苦慮しているとの声が多くあり、外国人人材を活用する施設もあった。

【資金繰り】

- 11 月の制度融資実績は金額で 2 ヶ月連続で増加となった。金利上昇の継続を見越して、固定金利の商品のニーズが高まっているとの声が聞かれた。

【雇用】

- 11 月の有効求人倍率は 1.42 倍と前月比 0.01 ポイント上昇となった。ヒアリングでは、内定者が辞退しても、3 年間は内定が有効として扱い、将来転職を希望した時に使える就職ファストパスを導入したとの声や、最近は技術職の引き抜きも激しく、金型技術の流出にもつながるため悩ましい問題との声が聞かれた。待遇面については、雇用維持のために派遣社員にも賞与を支給したとの声や、生産効率がすぐに向上するわけではないため、最低賃金の引き上げにより、資金面でマイナスの影響が出ているとの声が聞かれた。

【景気動向】

10 月の景気動向指数（一致指数）は前月比 2.8 ポイント上昇、11 月の中小企業の景況感は同▲2.0 ポイントとなった。